

# 令和6年度 府中市立府中第八小学校学校経営計画

令和6年 4月 1日

校長 松下 雄太

## (教育目標)

人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

### ◎「学び続ける子」(重点目標)

主体的に学び、目標を達成する「学びを操縦する力」を育成する。

### ○「仲良く助け合う子」

かかわりを大切にし、相手を思いやる「人権を大切に作る心」を育成する。

### ○「たくましい子」

体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける「健康管理の実践力」を育成する。

## 1 目指す学校像

創立68年の歴史と伝統を受け継ぎながら、ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる。保護者、地域の信頼に応え、教育目標である知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

### (目指す学校)

#### (1) 『子供たちのための学校』として、子供が第一の学校づくりを推進する。

毎日元気に、仲良く生活し、子供たちのよさを伸ばす学校 『人に優しく、自分に強く』

○子供たち一人一人を大切に見守る。

・子供たちが安心して学べる学校(仲良く助け合う友達、話を聞いてくれる先生)をつくる。

○子供たちのよさや可能性を引き出す。

・「やれば(成長)できる」ときめ細かく支援し、子供たちの主体的に学ぶ姿勢を育む。

#### (2) 教職員が、子供たちのために協働する学校づくりを推進する。

教職員が一丸となって、子供たちの成長を支える学校 『八小の子はみんなの子』

○教職員が、心を合わせて真摯に取り組む。

・子供たちの心に寄り添い、保護者との連携に誠実に取り組む。

○教職員が、力を合わせて真剣に取り組む。

・子供たちのために指導力を高め、よい授業をつくり、教育活動を発展させる。

#### (3) 保護者・地域と連携する学校づくりを推進する。(連携して教育の効果あげる)

保護者・地域と共に、子供たちを育てる学校 『共育(ともいく)』

○学校の役割(学力や体力の向上、豊かな情操の育成、規範意識の醸成)

○家庭の役割(子供たちの心の支え、愛情を注がれ温かく見守られる教育—家庭教育)

○地域の役割(学んだことを社会の中で実践する教育—ふるさと府中を愛し世界にはばたく)

## 2 中期的目標と方策

教育目標の実現に向けて、次の5点を中期目標とする。

### (1) 主体的に学ぶ児童の育成に向けて、教員の指導力の向上を図る。

- ・ 校内研究を通して、主体的に研鑽に励み、学校全体の教育力を向上させる。
- ・ 自己の強みを確立し、先見性に富み、専門性の高い教員を育成する。
- ・ 児童に生きる力を育成するため、深い学びのある授業を提供する。
- ・ 一人一人の児童に、確かな学力を定着させる教育を推進する。
- ・ 保護者や地域、児童から信頼される教員を育成する。「教育は人なり」
- ・ 体罰禁止、個人情報保護など、サービス事故防止を組織的に徹底する。

### (2) 仲良く助け合う児童の育成に向けて、教員の資質・能力の向上を図る。

- ・ 「いじめ暴力ゼロ」を目指し、児童が安心して落ち着いて生活する学校をつくる。
- ・ 児童の人格を公平に尊重し、学校における自己有用感を高め、自己肯定感を醸成する。
- ・ 児童の成長の課題を理解し、家庭と連携して、よりよい成長へと導くよう実践する。
- ・ 「八小の子はみんなの子」という考えに立ち、全教職員で児童理解に努める。
- ・ 不登校傾向や配慮を要する児童への対応を組織的に強化する。
- ・

### (3) 健康の維持、体力の向上を図る。

- ・ 児童の体力向上に向けて、意図的、計画的、組織的に取り組む。
- ・ 児童が体力の向上を実感し、主体的に体力を高めようとする取組を実践する。
- ・ 早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、正しい生活習慣を身に付ける。
- ・

### (4) コミュニティスクールの推進

- ・ 地域と共にある学校として、保護者や地域の方々と協働する学校づくりを進める。
- ・ スクールコミュニティ協議会を中心に、保護者や地域の声を積極的に取り入れる。
- ・ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させ、持続可能な取組にする。
- ・ 学校便りやHPなどで、積極的に本校の教育活動を保護者や地域に発信する。
- ・

### (5) 小中連携の推進

- ・ 近隣中学校との連携を密にし、9年間を見通した教育を推進する。
- ・ 小中連携コーディネーターを中心に府中第九中学校との連携を充実させる。
- ・ 幼稚園や保育園、保育所との連携に努め、入学時の不安の解消に努める。

## 3 本年度の取り組みの目標と方策

上記の5点それぞれについて、本年度の目標を設定する。

### (1) 教育活動の目標と方策

- ① 「主体的に学び続ける児童の育成」を目指して、教員が一丸となり研究に取り組む。

- ・ 学習活動に「見通す」「振り返る」ことを設定して、学びを操縦する力を高める。
- ・ 積極的にICTを活用し、主体的な学びにつながる授業改善に取り組む。
- ・ 授業公開を通して、指導技術を高め、積極的に人材育成を図る。
- ・ 校内研究を通して、年間指導計画を見直し、組織的に教科研究を図る。
- ・ 読書活動を推進するとともに、漢字や計算などの基礎基本の確実な定着を図る。
- ・ 交換授業や少人数指導、講師などを活用し、学習指導の充実を図る。
- ・ 服務規律を守り、職務を全うする。そのための研修や調査を実施する。

## ② 安心して生活し、仲良く助け合う児童を育成する。

- ・ 人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、助け合い、協力し合う学級経営を行う。
- ・ 人との絆の中で、思いやりの心を育て、笑顔が輝く体験活動を推進する。
- ・ 児童の健康・安全を第一に考え、大きなけがや事故ゼロを目指す。
- ・ いじめ防止対策基本方針を遵守し、いじめの見逃しをゼロにする。
- ・ 特別支援理解教育を推進し、課題のある児童への対応や不登校対策を組織的に行う。
- ・ 保護者との連絡を密にし、共に考え、共に育てる関係を構築する。
- ・ 特別活動や集団登校を通して、全校児童が豊かに関わる中で、主体性や社会性を育む。
- ・ あいさつや正しい言葉遣い、きまりを守るなど基本的な生活習慣を指導育成する。

## ③ 体力の向上を図り、健康的な生活習慣を身に付ける児童を育成する。

- ・ 運動に親しみ、体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける児童の育成に取り組む。
- ・ 体育授業の授業改善を図り、運動量を確保し、体力向上を図る。
- ・ 体力テストの結果を分析し、体力向上の方策を立てマネジメントする。
- ・ マラソン週間、なわとび月間など体育的活動を推進する。

## ④ コミュニティスクールを推進する。

- ・ 地域と連携し、特色ある教育活動である稲作活動、鼓笛活動を推進する。
- ・ 学校便りやHPで本校の教育活動を発信し、一層の連携強化を図る。
- ・ 来校行事を通じて、保護者や地域の方々に、教育活動を発信する。
- ・ お囃子会やおはなし会の方々など、教育支援ボランティアの力を教育活動に生かす。
- ・ 市や地域主催の行事に、児童の参加を奨励し、地域の一員としての自覚を促す。
- ・ 保護者アンケートやスクールコミュニティ協議会評価などを教育活動に生かす。
- ・ 災害発生を想定した防災教育を進め、地域と連携した体制を構築する。
- ・ 未来へつなぐ府中2020レガシー教育を推進し、伝統の継承や努力の大切さを学ぶ。

## ⑤ 府中第九中学校との小中連携を推進する。

- ・ 小中連携コーディネーターを中心に、年間3回の小中連携の日を充実させる。
- ・ 各教科の課題について話し合い、9年間の教育課程を見据えた連携を行う。
- ・ 秋の運動会の実施、出張授業や小中教員の実技研修など、教員間の連携を深める。

(2) 本年度の数値目標（保護者アンケート：①～④学校、⑤～⑦教職員、⑧～⑩児童）

- ① 学校の方針、教育活動、児童の様子を積極的に伝える(90%以上)
- ② 通知やメールなどで、児童の安全にしっかり取り組む(95%以上)
- ③ 児童が学習しやすい環境を整える(80%以上)
- ④ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させる(80%以上)
- ⑤ 来校対応、電話対応、連絡帳対応を誠実に行う(90%以上)
- ⑥ 学習内容を丁寧に教え、学習意欲を高めている(90%以上)
- ⑦ 児童の声に耳を傾け、しっかり受け止めている(90%以上)
- ⑧ 子供たちは、毎日楽しく学校に通っている(95%以上)
- ⑨ 子供たちは、自分から主体的に、家庭で学習をしている(90%以上)
- ⑩ 子供たちは、楽しく読書に取り組んでいる(80%以上)

#### 4 予算の活用計画

(1) 府中市「学校経営支援予算」について

配当額 5,971,000円（昨年度5,052,000円）

- 学習支援員3名（1・2年算数指導補助）（体育補助）配当割合約34%
- 学校図書館支援員1名（図書室の整理整頓、担任指導補助）配当割合約12%
- 生活指導支援員4名（学級支援、児童の相談役）配当予算約52%
- サポートルーム支援員

1・2年生の算数で、TTによるきめ細かな指導を実施するため、学習支援員を配置する。学校図書支援員は、図書室の図書管理を行い、良好な学習環境を整えるとともに、図書ボランティアと連携し、協働して環境を整える。

生活指導支援員は、特別に支援を必要とする児童のサポートを行う。サポートルーム支援員は、サポートルームにおいて、個別に学習支援を行う。それぞれの支援員は、児童や保護者の相談にも対応する。

(2) 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当時間 1,618時間（昨年度1,612時間）

- 校務改善支援3名 配当割合約100%
- 業務内容
  - ・副校長事務補佐・校舎職員室等環境整備・諸資料整理（ファイリング）
  - ・学習支援員予算事務・諸調査報告事務
  - ・教科書事務・転入転出事務・印刷事務 ほか

副校長や教員の業務を支援する。副校長の校内巡視や、児童や教員への指導にかける時間を確保する。また、教員の教科書関係事務などを担当することにより、教員の働き方改革を推進し、教材研究と児童理解のための時間を確保する。

### (3) 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー予算」について

配当額 100,000円 (執行率100%)

【内訳】

○講師謝礼 98,000円

○鼓笛活動備品 2,000円

持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する活動を行う。鼓笛活動を中心に、オリンピック・パラリンピックの精神に基づいて、豊かな国際感覚を育むための選曲を行い、運動会や移杖式で発表する。また「ふるさと府中」に目を向け、府中の歴史について学び、稲作の体験活動を行うなど、府中の歴史や文化、伝統を引き継ごうとする心を育む。

### (4) 東京都「学校と家庭の連携推進事業予算」について

配当額 367,440円

【内訳】

○支援員 349,440円

○スーパーバイザー 18,000円

学校生活の中で、友達との関わりに困り感をもつ児童や、授業中に集中力が継続できない児童及びその学級に寄り添い、きめ細かい声かけやアドバイスなどの支援を行う。登校しぶりの児童を学校に迎える、困り感をもつ保護者の相談を受けるなど家庭と連携する。

また、スーパーバイザーとして、スクールカウンセラーが担当する。心理学の専門的な立場から、教職員への指導や保護者に向けた講演をいただく。

以上